磯津の言葉(第13回)

第13回は、両生類と爬虫類の言葉です。

○ テーマ　カエル類)とヘビ・トカゲ類

分　類	動物等の名称	区分	集落での呼び名	備　考
両生類	かえる類	総称	ガエル、ガイル	
		幼生	ガイルゴダマ	
		手足のある幼生	—	
	ひきがえる類		フクガエル	
	あまがえる		アマガエル、アオガエル	
	あかがえる類		—	
	とのさまがえる		—	
	つちがえる類		ババガエル	
	うしがえる		ショクヨーガエル	(外来種)
爬虫類	へび類（総称)		クチナワ	
	あおだいしょう	総称	イナカワマリ、サトマワリ	
		白色	シロヘビ	
	しまへび	総称	シマヘビ	向かってくる
		黒色	カラス、カラスヘビ	
	じむぐり		カラカラヘビ	尾を鳴らす。赤い
	ひばかり		ヒバカリマムシ	
	やまかがし		アズキヘビ	
	まむし		マムシ、ヒバカリマムシ	
	とかげ・かなへび		トカケ、トカゲ	

※　関係する諺・表現等

- ババガエルは熱さましのために煎じて飲ました。
- 「ババガエルを煎じて飲むか、メダカを生きたまま飲むと、乳がすだまる（＝乳の通りが良くなり、よく出るようになる)」と言った。
- アオダイショウは家の守り神で、仏さんのある部屋の畳の下の空間に座布団が敷かれていて、そこでとぐろを巻いている。
- 「シロヘビは神さまの使い」
- 「ネズミやヘビ（＝アオダイショウ）がいなくなると火事が出る」
- ヒバカリマムシは秋になると産卵のために自分の牙を石を噛むことによって折る。その石を素足で踏むと「そこまめができる」と言った。

磯津ことばを記録する会（連絡先）
桜井好基（e-mail uoza_suzukagawa@yahoo.co.jp　TEL　090－4233－5695）
○表内の誤りを含め、関係する古い言葉・伝承（ことわざ）等があれば会までお知らせください。